



流汗悟道

汗を流して道を悟る

毛呂山剣友会



毛呂山剣友会では、剣道の修練をとおし、強く正しく優しい人を育てる「人間形成」を目的に、現在21人の団員で活動しています。旗印の「流汗悟道」のもと、大人も子ども共に汗を流し、稽古しています。

礼に始まり礼に終わる道場では、先生への礼、道場への礼、仲間同士の礼、保護者への礼など、感謝の気持ちを「礼」で表します。「礼」を学ぶことにより、人と人とのコミュニケーションに欠かさない大切な「あいさつ」が、相手の目を見て、大きな声でしっかりとできるようになります。また、正しい姿勢や落ち着いた態度なども身につきます。

初めは、礼法、足さばきなどを一からゆっくりと学びます。そして、徐々に必要な道具をそろえていきます。



日本武道館で開催された全日本少年少女剣道錬成大会にて防具のつけ方なども丁寧に指導しています。剣道は竹刀で相手を打つ競技

です。それだけに相手への思いやりは欠かすことができません。仲間がいるから強くなれる、相手がいるから強さが分かる。子どもたちには、相手への心づかいを大切にすることを本当に強い人間になつてほしいと願っています。

真剣勝負の稽古が終われば、小学校低学年から中学生まで、兄弟姉妹のようにみんな仲良しです。上級生は下級生の面倒をしっかり見てくれます。ぜひ、一緒にいい汗を流しましょう。



毛呂山中学校武道場にて

練習日 毎週木曜日・日曜日午後6時30分～8時、土曜日午後6時30分～7時30分

場所 毛呂山中学校武道場

会費 月額2500円

問合せ 毛呂山剣友会 ☎2995-6706 酒巻

免名山歴史散歩 文化財シリーズ 223 新規指定文化財の紹介⑦ 〜川角村道路元標〜

川角小学校の校庭の一角に御影石で作られた石碑があります。大正時代に建てられた「川角村道路元標」です。

道路元標は、大正8年（1919年）に公布された旧道路法施行令に定められた市や町、村を結ぶ道路の起点・終点を示す目印として設置された標識で、市町村間の距離を算出する際の基準として用いられていました。また、耐久性がある石材などを用いること、一辺25センチメートル、地上高60センチメートルの石柱型であることなど材質や規格、形状が細かく規定されていました。

現毛呂山町域には大正8年当時、川角村、毛呂村、山根村の三村があり、それぞれの村に道路元標が設置されていましたが、現在確認されているのはこの川角村道路元標のみです。当時の記録には、川角村道路元標は、川角村役場（現在の川角小学

校内）に設置されていたとの記載があります。大正時代に最初に建てられた位置までは特定できませんが、小学校前の県道の歩道には、平成23年に現在地に移転する前の地点がプレートで表示されています。

川角村は、明治22年（1889年）に旧川角村、下川原村、市場村、大久保村、大類村、苦林村、西戸村、箕和田村の八村が合併して誕生しました。昭和30年（1955年）に毛呂山町と合併し、現在に至りますが、この道路元標は現在も「川角村」の名を留めており、毛呂山町の成り立ちの歴史に川角村が存在したことを伝える貴重な地域資料といえます。

川角村道路元標は、平成23年には、毛呂本郷囃子や長瀬囃子、町内の4つの獅子舞と共に町指定文化財となりました。また、平成22年には、川角小学校の外構改修に伴い県道の歩道から見ることができるよう場所に移築されました。ぜひ足を運んで、毛呂山の歴史の一端にふれてみてください。



移築前の川角村道路元標